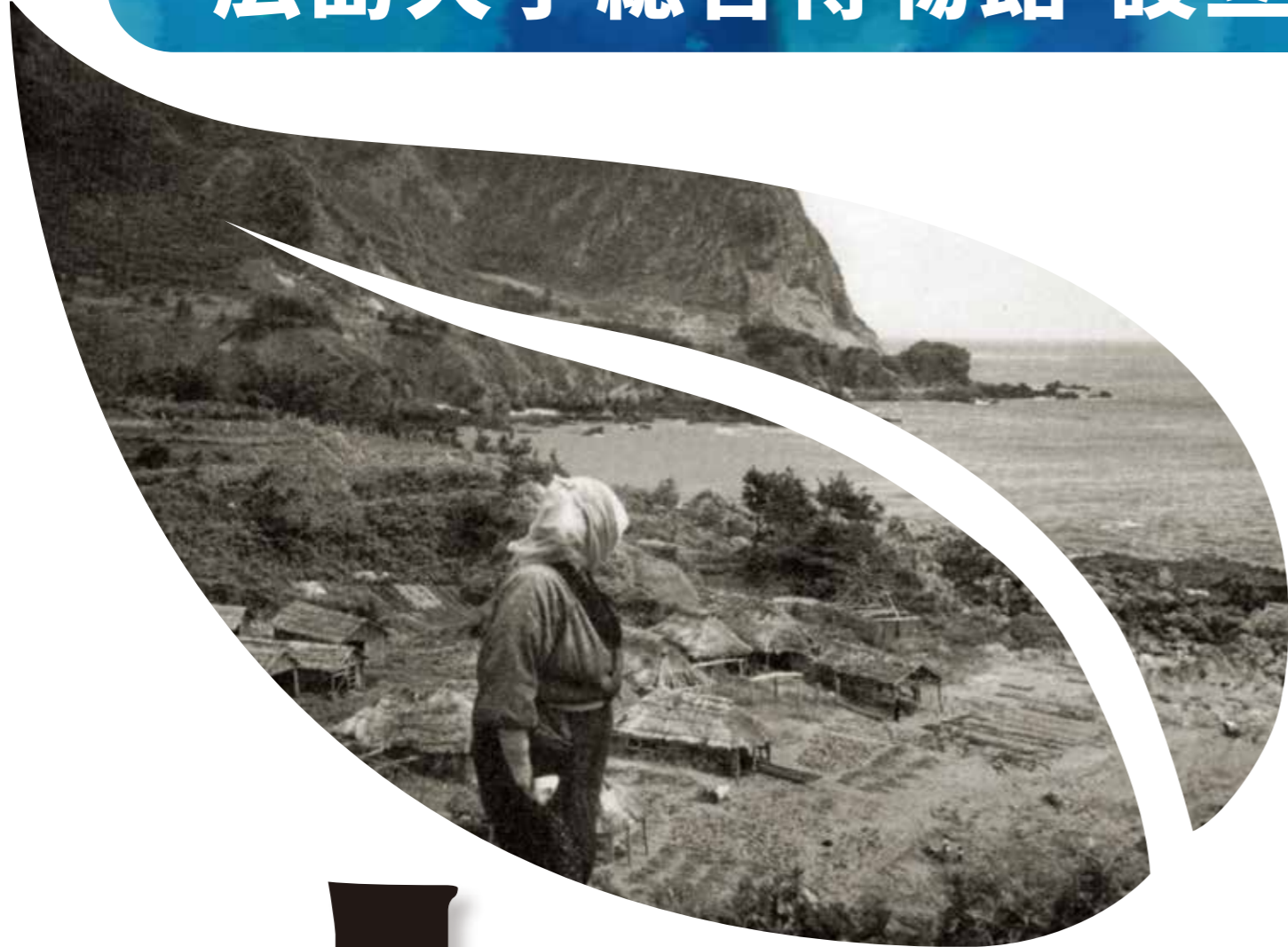




広島大学総合博物館 設立10周年記念企画展 Part2



人と

— 今、ネイチャーへ —

自然



入場無料

左上モノクロ写真/所蔵 周防大島文化交流センター

会期 2015年10月30日(金)~11月14日(土) 10:00~17:00 (入場は16:30まで)

※ただし10月30日(金)は13:00~ ※11月2、9日(月)休み。

会場 広島大学東広島キャンパス 学生プラザ1F 主催 広島大学総合博物館

Event -イベント-

いずれも申込み不要・入場無料

オープニング記念講演会

2015年10月31日(土)
13:30~15:00

坂井 陽一 (広島大学大学院生物圏科学研究科 教授)
「生命の島 鹿児島県口永良部島
での魚類研究と島での暮らし」

広島大学東広島キャンパス
教育学研究科 L104 教室

公開講演会

2015年11月3日(火・祝) 13:30~16:00
高木 泰伸 (周防大島文化交流センター 学芸員)

「宮本常一が見た瀬戸内の風景」
藤田 佳久 (愛知大学 名誉教授)
「山村史のダイナミクスと山村の価値」

広島大学東広島キャンパス
教育学研究科 L104 教室

フィールドナビ

2015年11月7日(土)
13:30~15:00

塩路 恒生 (広島大学植物管理室)
「大学の植物施設訪問
— 植物とのふれあい・学び —」

集合場所 広島大学東広島キャンパス
法人本部棟前
会場 植物管理室

お問い合わせ



広島大学総合博物館
Hiroshima University Museum

〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1 Tel.082-424-4212

●開館時間/10:00~17:00(入館は16:30まで) ●休館日/毎週日・月曜日、祝日、年末年始

太古より、人と自然の関係は、とても深く密接なものであり、またそのあり方は多様です。

時には海や山を上手に活用することでその恵みを受け、時にはその脅威（集中豪雨・地震・噴火…）にさらされてきました。人と自然は、ある意味では表裏一体のものであり、切っても切れない関係にあるのです。しかし、近年ではその関係が希薄になったような印象を受けます。

そこで、設立 10 周年を記念した今回の企画展では、日本各地をフィールドとして人や風景の記録を膨大に残した民俗学者・宮本常一の写真をその入口として、「海のめぐみ」は口永良部島（鹿児島県）、「山のめぐみ」は大白川（新潟県）を題材にして人が自然から受けてきためぐみ、また 2014 年 8 月に起きた広島土砂災害を題材にして自然の脅威について、本学の文理双方の研究成果をもとに紹介し、人と自然の関係について見つめ直します。



フィールドナビ

11月7日(土) 13:30~15:00

「大学の植物施設訪問 -植物とのふれあい・学び-」



■塩路 恒生(広島大学植物管理室)

植物管理室は、理学研究科の施設として主に生物学講座の研究・教育のために利用される植物が育てられています。また、作物栽培実習や自然環境活動も行われています。ここは、植物を身近に学び、実際にふれあうことのできる学内でも貴重な空間です。今回は、特別に植物管理室の施設内をまわりながら、植物のおもしろさについてご案内します。

集合場所：東広島キャンパス法人本部棟前
会場：植物管理室

Event - イベント -

公開講演会

10月31日(土) 13:30~15:00

くちのえらぶ

「生命の島 鹿児島県口永良部島での魚類研究と島での暮らし」



■坂井 陽一(広島大学大学院生物圏科学研究科教授)

広島大学水圏資源生物学研究室は、1970 年から現在まで 40 年以上にわたって口永良部島での魚類生態調査を行ってきました。手つかずの自然に向き合うことで、魚の暮らしの実態に関する幾多の意義あるフィールド研究の成果を得てきました。島に密着した素晴らしい暮らしの実態と、魚たちの面白い現象を追いかけ続けた研究史についてお話ししたいと思います。

会場：教育学研究科 L104 教室

11月3日(火・祝) 13:30~16:00

「宮本常一が見た瀬戸内の風景」



■高木 泰伸(周防大島文化交流センター学芸員)

民俗学者・宮本常一の郷里にある周防大島文化交流センターは、宮本が生前に収集した資料を多数所蔵しています。なかでも 10 万枚に上る写真は、高度経済成長期の生活の変遷を記録したものとして特に注目を集めています。今回は瀬戸内海の島嶼部で撮影された写真を中心に紹介し、宮本常一のまなざしの先にある暮らしの変遷に目を向けてみたいと思います。

「山村史のダイナミクスと山村の価値」



■藤田 佳久(愛知大学名誉教授
同大学東亜同文書院大学記念センター・フェロー)

日本の山村には、自然環境とかかわりを持ちながら続いてきた長い山棲みの歴史があります。それは日本文化の基盤を生み出してきました。しかし、長い山村史からみればごく新しい戦後高度経済成長により、大きな変容を迫られました。ここでは、中・四国地方にも目配りしながら、この変容を受ける前の山村像を、山村史のダイナミクスの中で見ることで、現代山村のもつ価値を見直してみたいと思います。

会場：教育学研究科 L104 教室

申込み不要・入場無料

展示構成

- ① ネイチャーとともに、そして…
- ② ネイチャーのめぐみ
 - ・海に生きる
 - ・山に生きる
- ③ ネイチャーの脅威
- ④ 地域からネイチャーへ



展示の目玉

- ・宮本常一が撮影した写真等
- ・南西諸島の魚類標本
- ・南西諸島の貝類
- ・新潟県山村の熊狩り等の民俗資料
- ・潜水調査器材
- ・動物剥製
- ・調査用ドローン

交通アクセス

◎公共交通機関でお越しの場合

●企画展会場／JR西条駅前から「広島大学」行バス乗車(所要時間15分)、「広大西口」下車徒歩5分
※お帰りのバス停から乗車して下さい(バスはキャンパスを反時計回りに周回して西条駅へ戻ります)。

◎車でお越しの場合

①番ゲートよりお入り下さい(他のゲートは入構カード専用です)。
※総合博物館へは教育学部周辺の駐車場が便利です。企画展会場へは総合科学部周辺の駐車場が便利です。
※お帰りはどのゲートからも出られます。

お問い合わせ

広島大学総合博物館 ●開館時間／10:00~17:00
Hiroshima University Museum ●入館は16:30まで
(入館は16:30まで)
●休館日／毎週日・月曜日、祝日、年末年始
〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1 Tel.082-424-4212
URL <http://home.hiroshima-u.ac.jp/museum/>
E-mail museum@hiroshima-u.ac.jp

Hirog
Designed by T. Kinyama

